



かどや通信

第3号

発行日 平成25年8月
発行 かどや保存会
事務局 鳥羽市鳥羽4丁目3-24

アジアの大学生、日本伝統・文化に感激

東南アジア諸国連合(アセアン)十ヶ国の大学生二十九名が六月二十七日に来館し、古民家見学や茶道、指文字アート等を通して日本文化を体験した。

茶道は、裏千家の千草宗石先生の丁寧な説明により、入室前につくばいで柄杓を使って手を洗うことから始まり、茶道独特の細やかな所作に見入り、季節の和菓子と抹茶を楽しんだ。

慣れない正座に足がしびれて戸惑う学生もいたが、「お茶をいただく時に、隣の人に『お先に』と声をかけるなど、周りへの気配りを欠かさない日本文化を体験できて良かった。帰国したら、友達にも勧めたい」と話していた。最後には、希望者がお茶を立てる体験もでき、自分で立て



た抹茶を満足そうに飲みほす学生もいた。

一方、グラッフィクデザインナーの遠藤美和さんは、指に墨を付けて文字を書く指文字アートを披露した。さらに、



伊勢和紙のはがきに学生の名前をひらがなで書き、そこに「おかげさま」等の文字を添えてプレゼントしたところ、「どういう意味ですか」などと日本文化への旺盛な好奇心で会話が弾んだ。今回の訪問は、外務省が推進している青少年交流事業の一環。総勢360名が30名1グループとなつて全国に分散したもので、今回で3度回目となる。

なお、夕食は、鳥羽の一般家庭に招かれ、日本の家庭の味も満喫したそうだ。

花守人

かどやの周りには、いつもプランターに植えられた季節の花が彩りを添えている。

これらの花々は、かどやの前の理容フジワラのご夫婦が世話をしてくれている。水やりはもちろんだが、枯れた花をこまめに取り除いてくれるお陰でいつも瑞々しい。

さらに、七夕が近づくと笹を持ってきてくれたり、館内の花が少なくなると、自宅の花を提供してくれたり、細やかな配慮が、かどやを花々で潤してくれている。

この地に理髪店を構えて二代目となるご夫婦は、昔気質の職人魂を持つ床屋さんで、この地を離れても「剃りは藤原さんでないといかん」と、遠方からの御鼻眞さんもやってくる。

かどやは、公開前から掃除だ、内覧会だ、と何かと藤之郷町内会の皆さんの世話になってきたが、静かに優しく花の世話をしてくれる藤原さんも得難い大切な隣人である。

えんがわコンサートに、しみじみ&うっせり♪

「えんがわコンサート」と銘打ったかどや初のコンサートが七月十四日、明治十七年に建てられた座敷前の築山を借景にした特設舞台で行われた。

そもそもは、鳥羽の夏の恒例行事として定着しつつある「新宿トラッドジャズフェスティバル」鳥羽」を盛り上げようと企画されたもので、ジャンルの異なる4組が自慢の音楽を熱演した。



誰にでもなじみある優しい曲で会場を和ませた。

まずは、二胡とギター、のらぶら、呼さんが、「月の砂漠」や「ふるさと」「涙そうそう」等、



演歌歌手の城エリナさんは、オリジナル曲に加えて「瀬戸の花嫁」等の懐かしい曲で盛り上げた。

サンシンを奏でた杉本さんは、情緒豊かに沖縄の雰囲気を感じ



出した。

アイリッシュハープの松尾さんはかわいいお弟子さんとの共演を披露した後、ジャズのスタンダードナンバーも演奏され、アンコールにも応えて、大きな拍手に包まれた。



残念ながら、当初参加が予定されていた特別ゲストのトランペッター・中村好江さんは、夜のリハーサルの都合で参加は叶わなかった。

このコンサートの告知は、町内会の回覧版や掲示板に加えて、口コミ等で行われたが、近所の方々や演奏者の知人、熱烈なファンなど50人がかどやを訪れ、舞台正面の座敷だけでなく、庭が見えるさまざまな場所に陣取り、優しい音色に包まれた穏やかなひと時を過ごした。

参加者からは「楽しかったわ。

友達をもっと誘えば良かった。楽しみにして、またやってみよう。このコメントもいただいた。

家守人

「ようこんな形で今まで残ったもんじゃないな」来館者の方から度々言われる言葉である。この家が今あるのは、九代目の妻・重子なくしては語れない。

江戸末期から明治・大正にかけて隆盛を極めた廣野家も戦後大きな危機を迎えた。農地改革で多くの土地を失い、さらに九代目が病に倒れたのである。

重子は、前妻二人を病で亡くした十四歳年上の九代目の元に二十九歳で嫁いできた。陸軍大尉の娘として育った重子だが、戦後のこの危機に対処するため、広い母屋を大胆に分割して貸家としたのである。かどやの奥さんと呼ばれた陰では、薪割りや煙突掃除等の力仕事もこなしながら、九代目の介護を十七年間続け、男性顔負けの精神力で廣野家を守ってきたのだ。

八十八歳で骨折して以来、九十五歳で他界するまで施設の世話になることが多かったが、最後の三日間は、かどやに戻り、座敷から庭を眺めて旅立った。

今のかどやを重子はどんな思いで眺めているのだろうか。

ふるやの美、再発見!

好評開催中! 岡村廣治さん写真展



鳥羽市在住で日本報道写真連盟会員の岡村廣治さんの「我がふるさと徒然なるまゝにPart7」と題した写真展が、七月一日から一カ月間開催された。岡村さんが写真に興味を持ち始めたのは、2000年秋に鳥羽で開催されたスカイダイビングの大会をデジタルカメラで撮影したのが始まりとのこと。当初は、花や自然、祭の風景等を撮っていたが、伊勢湾に昇る朝日に衝撃を受けたのをきっかけに、朝日や伊勢志摩から望むことのできる富士山に魅せられ、毎朝太陽が昇る1時間前には撮影ポイントで待機するようになった。

今回は、毎日新聞社「2010あなたのニュース写真年間賞」のグランプリを受賞した「汽車ポッポ」をはじめ、岡村さんの情熱が見る者を圧倒する渾身の作品四十一点が展示されている。プレオープンした六月三十日には、神戸からたまたま来館した家族が「鳥羽から富士山が見えるんですね!」と、しばし写真の前に立ち尽くしていた。作品の撮影場所と日時も明記されており、カメラ好きの方々にはたまらない写真展だ。さらに、岡村さんは時間が空けばかどやを訪れ、写真展が目的の来場者にはていねいに写真の説明を行い喜ばれていた。また、写真家としてのかどやの魅力は、庭と色ガラスと云い、来館の度に盛んにシャッターを切っていた。

赤崎祭は素敵な花でお出迎え

「ゆかた祭」と言われて鳥羽に夏を告げる赤崎神社の赤崎祭が六月二十二日に開催された。

かどやにとっては、一般公開後初の祭とあって、赤崎神社に参拝される方々にかどやに立ち寄っていただこうと、公開時間を二十時まで延長した。

その結果、二百七十名を超える方々が入館され、「鳥羽にこんな所があったとは思わなかった」と外観からは想像しがたい奥行き深さに驚いたり、家族で庭に見入ったり、ゆったりとした時間を楽しんでいただいた。各部屋には、その部屋にふさわしい花



わしい花が飾られていた。これは錦町夫人会の皆さんの力作である。かどやの一般公開を祝して入館者を花で迎えたいと協力をお願いしたところ、快諾していただき、同町婦人会のメンバー十二人が前日から準備してくれた。

お花と花器は持参され、池坊の高屋先生の指導のもと、品格と個性あふれる花々が文字通り祭に花を添えてくれた。

ところで、廣野藤右衛門の九代目夫人が花好きで、庭に咲いた花々を常に飾っていたため、かどやではその意思をついで花を絶やさぬようにしている。発表の場として花を生けてくれる人大歓迎!あなたのお花もかどやに飾ってみませんか。



ちよっとだけ茶道体験

「茶道って、一度は体験してみたいけど、教室に通う程ではないし」なんて思っている人を対象に七月三日、「ちよっとだけ茶道体験教室」が実施され、たまたま見学に来られた方も含め、十二名が参加した。

今回は、自宅でも楽しめるようにと、ポットのお湯とお盆を使った気軽な入門編だ。

しかし、裏千家の千草宗石先生は、入門編といえども、懇切丁寧に作法を伝授。正座が辛い人には、テーブル席に場所を変えるなど、参加者の状況に応じた細やかな指導が好評だった。



参加者は「茶道体験は二度目ですが、とても楽しかったです。機会があれば、是非また体験し



たい」「見学にきたら、偶然茶道教室をされていて、参加させていただきましたが、楽しい体験ができました」等と話してくれました。

かどやで寺子屋

公立学校が夏休みに入った七月二十二日から、平日の午前中に近所の子供達が宿題をしやすい環境を提供しようと、開館を



一時間繰り上げて、九時から寺子屋を開校している。と言っても、先生がいる訳ではない。「算数が分からん」と言う子がいれば、分かる生徒が教えたり。鳥羽一丁目から四丁目の子供達数名が、和気あいあいに宿題をこなしている

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時～12時	13時～16時	10時～16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,000円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された使用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

◆◆貸部屋の案内◆◆
かどやを有効にご活用いただくこと、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶和会や勉強会、展示会などにご活用ください。詳細は、かどやへ。
電話〇五九九―二五―八六八六

かどや保存会会員継続のお願い

平成25年度も会員として継続してご支援賜りますよう、お願い申し上げます。
本年の年会費(2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入ください。
(1) 手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。
(2) 銀行振込：郵便局 普通 かどや保存会 00850-4-151751
三重銀行 普通 かどや保存会 2289016